

2 指導計画(全3時間)

- 【目標】 ◎学習したことを、日常の生活に生かしていこうという意欲をもつ。
◎「左右」「上下」の組み立て方の原理・原則を理解する。
○「左右」「上下」の組み立て方を確かめて書く。

学習内容と児童の活動		教師の支援
第1次	「知る」ために書く 1. 漢字パズルをする。(硬筆) 2. 本時のめあてをつかむ。 「字が部分になると、どのように変化するのだろうか。」 3. 予想する。 4. 確かめる。 5. ほかの文字でも確かめる。 6. 原理・原則にしたがって、それぞれの漢字をもう一度書く。(硬筆) 7. まとめとして感想を書く。	・「左右」「上下」それぞれの部分となる漢字を提示して組み立てさせ、学習への意欲を喚起する。 ・組み立てるためには、もとの漢字の字形が変化していることに気づくようにする。 ・「鉄」と「想」について調べさせ、特に「左右」の組み立てでは単純に幅を狭くしているのではなく、原理・原則に基づいて字形が変化していることに気づくよう助言する。
第2次	「解決する」ために書く 1. 試書をする。(毛筆)「情熱」 2. 本時のめあてをつかむ。 「文字の組み立て方に気をつけて書こう。」 3. 基準を確かめる。 4. 練習する。(毛筆) 5. 自己批正・相互批正をする。 6. まとめ書きをする。(毛筆) 7. 感想を書く。	・前時の学習に照らし合わせ、基準の確認をする。 ・毛筆で大きく書くことにより、字形の変化に対する意識を高める。 ・練習用紙を用意しておく。 ・試書とまとめ書きを比べ、学習の成果を確認し満足感を味わえるようにする。
第3次	「応用する」ために書く(本時) 1. 前時までの学習を振り返る。 2. 本時のめあてをつかむ。 「漢字が部分になるとどのように変化するかを考えて、硬筆で書いてみよう。」 3. 左側の部分になる漢字を、原理・原則に当てはめて書く。(硬筆) 4. 確かめる。 5. 左右の組み立てから成る「漢字探しゲーム」をする。 6. まとめとして感想を書く。	・前時までの学習を振り返ることにより、「左右」の組み立て方を確認する。 ・さまざまな文字に原理・原則が当てはまることを、「金」「言」「糸」「車」「米」「女」「石」「火」「木」「王」「土」「火」で確かめ、「漢字探しゲーム」への意欲づけにする。 ・教科書を使って漢字を探し、「左右」の組み立てから成る漢字の多さに気づき、組み立て方の原理・原則を生かして書くことにより字形が整うことを、楽しみながら学べるようにゲーム化する。

〈評価規準〉

	おおむね満足できる状況	努力を要する児童への手立て
関心意欲態度	○「左右」「上下」から成る漢字の組み立てを理解し、日常の書写活動に生かしていこうという意欲をもっている。	・文字の組み立て方の原理・原則がさまざまな文字に当てはまることを、ゲームを通して体感させる。
知識理解	○「左右」「上下」から成る漢字の組み立て方の原理・原則を理解している。	・多くの漢字を書き、具体的にどのように変化して組み立てられているのかを考えさせる。
技能	○文字の組み立て方に気をつけながら書いている。	・補助線を入れた練習用紙を用意したり、個別指導を行ったりする。

連載 書写の時間を楽しく ③

単元の流れを工夫して、
日常に生きてはたらく力を(六年)

新しい指導を考える会

1 実践の趣旨

アンケートをとってみると、理由はさまざまだが、児童の多くが「正しく整った文字を書きたい、書けるようになりたい」という気持ちをもっていることがわかる。パソコンの普及によって手書き文字を書く機会が少なくなってきたはいるが、やはり自分の手で文字を書くことは大切であり、「整った文字を書きたい」という気持ちは変わらないのである。児童の願いに応える授業を展開したい。

とはいえ、書写の時間は限られている。その中で、児童に書写の力をつけるためには、文字の書き方の原理・原則を理解させ、ほかの文字にも応用できるように指導しなければならぬと考える。書写の時間の中で、ある文字だけを正しく整えて書けるようになったとしても、それが日常に生かされなければ「生きてはたらく力」とはならない。

今回の授業は、六年生の「文字の組み立て方」の学習である。これまでに児童は、三年生で硬筆、四年生以降は毛筆で、

文字の組み立て方について学習してきたが、「書写の授業は、先生が朱を入れて直してくれたものを練習する時間」という意識がまだまだあるようだ。そこで今回は、文字の組み立て方のまとめとして、これまでに学習したことを確認し、日常化を図ることをねらった。

そのために、児童が文字の書き方の原理・原則を発見し、「教材」を通してそれを確認しながら書き、さらにほかの文字にも応用(日常化)できるように授業を組んでみたい。そして、児童が、「書写の授業は、文字を書くときのきまりを学ぶ時間」だと感じられるような単元構成をしたいと考えた。

○単元構成のポイント

指導計画のとおり、「硬(知識の確認)→毛(知識の技能化)→硬(知識の応用)」の流れをとった。まず硬筆で「左右」「上下」の文字の組み立て方を理解し、毛筆で取り立て学習をすることでより意識を高め、それをまた硬筆で書くことにより学習したことを広げていく。この流れで、学んだことを日常化することをさらに意識させたい。

また、それぞれの時間で、児童が主体的に課題を見つけ、解決のために活動できるよう、ワークシートや練習用紙を工夫していきたい。さらに、「知識の応用」の部分でゲーム化することにより、意欲的に活動できるよう考えた。ゲームでは、グループで競わせたり、ポイントのつけ方を工夫したりするなどして、原理・原則を生かして書くことをしっかり意識させたい。また、ポイントをつける際に相互評価を取り入れることで、文字を見る目も養っていくことができればと考える。

4 学習を通しての児童の感想

○「ほくが「左右」の組み立てで気をつけたことは、右上がりを強くすることと中心の画を右寄りにすることです。「情熱」は、組み立て方が難しかったです。この学習をして、これからノートを書くときにも、習ったように書きたいと思いました。

○漢字の組み立ての勉強をして、組み立て方や正しい漢字の書き方がよくわかりました。漢字の組み立てがこんなに奥が深いとは思いませんでした。

○今までは、組み立て方を全然気にしないで書いていました。今では、右側を切り取った形にしたり、右上がりになるように気をつけて書いています。はじめに「情熱」と書いたときより、今のほうがよくなっていると思います。これから組み立て方に気をつけて書いていきたいです。

○文字の組み立て方を勉強して、いろいろな漢字の組み立て方がわかってよかったです。それに氣をつけて書くと、とても形よく書けてびっくりです。

【授業を参観した同僚から】

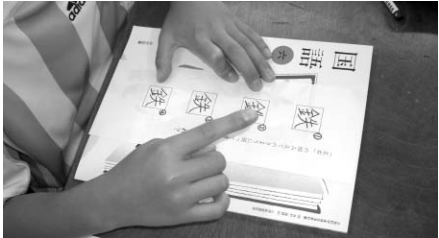
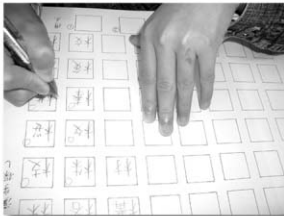
○教材文字に限定されることが多い書写学習ですが、本時は左右の組み立て方の原理・原則を確認し、漢字探しゲームを取り入れたことで児童の文字に対する興味・関心の高まりが見られました。どのグループも意欲的に漢字を探し、字形に注意して、ワークシートに記入していました。ワークシートには、偏の部分の中心画の位置がわかるように点線を入れてありました。児童はあまり意識していないようでした。文字の組み立ての原理・原則を理解させることは、日常の書写活動への応用・発展につながる大切な学習であり、継続して指

3 本時の展開

【単元名】文字の組み立てを考えよう(3時間扱い)

【本 時】3/3

【ねらい】○左右の組み立てから成る漢字の原理・原則を考えながら硬筆で書き、学習したことを今後も生かしていこうとする意欲をもつ。

主な活動・指導上の留意点と支援(○)	配分・形態	学習の様子
1. 前時までの学習を振り返る。 「鉄」 - 原理・原則に従って書いたものと、そうでないものを並べ、その中から正しいものを選ぶ問題を解く。 2. めあてをつかむ。 漢字がほかの漢字の部分になるとどのように変化するのかを考えて、硬筆で書いてみよう。 3. 左側の部分になる漢字を、原理・原則に当てはめて書いてみる。 「金」「言」「糸」「車」「米」 「女」「石」 「火」「木」 「日」「王」「土」 ○これまで考えてきた形の変化だけでなく、幅や位置についても考えられるよう、ワークシートを工夫する。 4. 確かめる。 - それぞれの部分になったときの形、幅、位置を確認し、再度書く。 ○「中心画が中央寄りになる」という点は難しいようなので、特に注意させる。(ワークシートに点線を入れておく。) 5. 左右の組み立てから成る漢字探しのゲームをする。 ○「3」で使った漢字をカードにしておき、班ごとにカードを引いて、それを部分にもつ漢字を探す。 ○漢字を見つけたこと、それを原理・原則に基づいて書くことができたことのそれぞれにポイントを与えることにより、組み立てを意識させるようにする。 ○採点を互に行うことで、原理・原則を再確認できるようにする。 6. まとめをし、感想を書く。 ○学習漢字の中には、「左右」の組み立てから成るものが450以上あることを伝え、組み立て方の原理・原則が応用できることを伝える。	(個別) 5分 (一斉) 3分 (個別) 5分 (一斉) 7分 (班) 15分 (個別) 10分	▼「鉄」を並べたカードで原理・原則を確認する児童  使用したワークシート▶  ◀ ワークシートを拡大した掲示例  教科書を使って漢字を探す児童▶  ◀ 採点をする児童 

5 成果と課題

導していかなければならないと再確認した授業でした。

はじめに硬筆を取り上げたことで、自分が日ごろ書いている文字を見つめ直すことができ、学習への必要感が高まったと考える。ただ書くだけではなく、文字を書くときの原理・原則を知識として身につけ、それを技能と結びつけて応用することができることを体験できれば、日常化にもつながると考える。また、授業にゲームを取り入れたことにより、知識が応用できることを楽しく体験することができたと思う。

児童の感想には、上記のように、これからの書写活動に生かしていきたいというものが多く見られた。技能としてはまだまだ不十分な点が多いので、この気持ちを持続させながら、書写の授業だけでなく、新出漢字の学習などで、折に触れ、組み立て方について意識させていかなければならないだろう。

今回は六年生の授業であったが、最初に毛筆で組み立て方を学ぶ四年生で実施することも考えてみたい。

児童は「書写の授業を『おもしろい』と感じるはずだ。授業で学習した知識や技能が、すぐに書き文字に反映されるからである。しかし、学習内容や技能を定着させたり、日常に生かしたりするには、仕掛けが必要となる。本実践では、字形の原理・原則について、「知識の確認・技能化・応用」とに分けて単元の流れを工夫し、最後にゲームで締めくくって知識・技能の定着と応用を図るなど、単元目標の達成に向かってさまざまな仕掛けや工夫が施されている。本授業を通して、児童達は「何ができたか」ではなく、「何がわかったか、わかったことをこれからどう生かせばよいか」を理解したのである。そして「書写の授業っておもしろい!」と感じたに違いない。(M)